



一粒の麦



ひとつぶのむぎ



秋のコンサート



生け花クラブ



体験デイ(風の街)



調理実習(花の街)



調理実習(ちゅら班)

聖書のことば

神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて、益としてくださることを、私たちは知っています。

(聖書 ローマ人への手紙8章28節)

■ 情けは人の為ならず ■

地域福祉課長 坂元 淑子

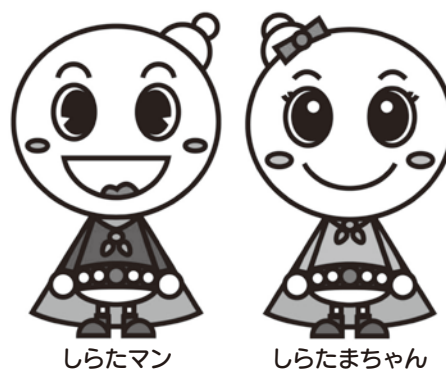
意味を知らないと読んだとおりに考えるのか、最近では「情けはその人のためにならないので親切にしない方がいい」と解釈する人もかなりいるようです。他人の助けは借りず、自分のことは自分でしっかりするようにしなければならないということでしょうか。いかにも個人主義の現代にふさわしい考え方だと思います。

ところで、個人的に「迷惑をかける」という言葉が気になっています。よく耳にする形は「迷惑をかけたくない」というものです。国語辞典によると、迷惑とは、「その人の行為がもとで、周りの人が困ったり、嫌な思いをしたりすること」とあります。基本的には人としてそのようなことをしないにこしたことはないでしょう。しかし、最近では、迷惑をかけたくないので年を取ってから子どもの世話にはならない、子どもに迷惑はかけたくないので先祖代々のお墓は処分すると考える人がいると聞きます。昔は当たり前のこととして行われてきた親の介護や墓の維持、今では迷惑な行為の一つとなりつつあるのでしょうか。確かに私も現代社会に生きる一人として、やろう（やってもらおう）と思ってもできない現実がたくさんあるので仕方ないと理解はできますが、少し違和感を覚えます。「迷惑をかけたくない」という言葉を使って、様々な場面で無意識の内に人との関係を絶っているように思えるのです。人は一人では生きられません。皆に支えてもらいながら生きています。多少迷惑をかけることがあってもお互い様だからいいのではないかと考えるのですが、時代遅れの考えと切り捨てられますか。

このように、昔に比べると人とのつながりや関係はかなり希薄化しています。そのため、現在では実に様々な問題が発生しています。子どもの貧困、口腔崩壊、年間3万人の自死、非正規雇用、母子家庭の貧困、ダブル(トリプル)ワーク、晩婚化、親の介護と育児との重なり、未婚率の上

昇、配偶者のいない子との同居、高齢化、独居老人、孤独死などなど。これらのいくつかはニュースで見聞きしたことがあるでしょうが、遠い地域のことと思っていませんか。実際には、思ったより身近な問題として存在しているのですが、隣に何かしらの問題を抱えた人がいても、つきあいがなければ気付かないでしょう。もしくは、気付いていてもおせっかいなことはできないのでどうしようもないのかもしれませんが。何とも歯がゆい思いですが、このままでは私たちの将来が本当に生きにくい世の中となるような気がします。

しかし、このような問題が将来どのような影響を与えるかを見据え、危機的状況となる前に警鐘を鳴らして地域福祉の推進が進められています。行政はもとより、各種機関や様々な団体が連携して地域を支えようとしているのです。現代の地域づくりです。エデンの園も、宮崎県社会福祉協議会の事業に参加し、生活困窮者の相談にのっています。困っているけれども迷惑をかけるといけないからと我慢をしている方、どこに相談していいか分からない方、地域で気になることがある方のご連絡ください。話を聞いて、関係機関につなげたり、福祉サービスの利用につなげたりできます。



みんなの優しさが「向こう三軒両隣」に届けば、世の中全体を巡り巡って住みよい街になるのではないかと思います。

ちゅら班 紹介

チーフ 山本 和寛

今年度からちゅら班という班名で日々の活動を行っています。ちゅら班には3つのグループがあり、構造化支援グループ(オリオン班)・園芸グループ(ハイビスカス班)・陶芸グループ(シーサー班)で構成されています。オリオン班では、自閉症に特化した個別プログラムを提供しています。情緒安定と、生活の幅の拡大等を目指しています。ハイビスカス班は、園芸を主に作業を提供しています。園芸では、畑の整備・農作物の栽培、口腔ケア、居室清掃等を提供し、身体機能を使った作業から口腔ケアの充実を目指した作業を行っています。シーサー班は、陶芸作業を主に提供しています。また、新聞紙を使用した汚物入れの作成や、点字、運動等も行っています。

ちゅら班の班目標【チャレンジ】を掲げ、可能性を見出すことで出来る事を増やしていけたらと思っています。

フローラ班 風の街班 紹介

チーフ 光森 勇人

フローラ班風の街は、男性5名女性9名合計14名の利用者が活動しています。肢体不自由の利用者がほとんどで、衣食住の充実をテーマに入浴や口腔ケア、リハビリなどに力を入れています。口腔ケアではただ歯磨きをするのではなく、顔などのマッサージ、時には氷を使ったアイスマッサージなども取り入れ、普段の食後の歯磨きとは違ったアプローチを行っています。また、利用者の可能性を求めて出来る事は自分で頂くように心がけています。なかでも毎週木曜日にはクリーンデイと銘打って、職員と共に清掃を行っています。窓や畳を雑巾で拭いたり、ホールや廊下をモップ掛けしたり、リハビリや運動を兼ねて一生懸命作業されています。外出では、ゲームセンターでUFOキャッチャーで遊んだり、ピーチでハンバーガーを食べたりなど普段体験できないような事にも挑戦し、沢山の刺激を受けて頂いています。

これからも、様々な事にチャレンジして頂き、刺激ある充実した生活を送って頂けるよう、風の街全体で取り組んでいきたいと思ひます。

フローラ班 花の街班 紹介

チーフ 谷口 博孝

フローラ班花の街は、男性3名女性6名合計9名の利用者が活動しています。今年3月より旧ひまわり棟を改築し、新たな環境の中で生活をされている皆さんが活動しています。ご高齢になられた利用者が殆どですが、衣食住の充実を元に年齢を重ねても「その人らしい生活」を大切にという趣旨で、以前されていた調理に挑戦してみたり、洗濯物を干したりとゆったりとした時間の中で、無理なく楽しみながら、過ごしています。新しい環境と空間にもすぐに溶け込み、それまで、車椅子での移動が多かった方も自発的に歩かれたりとゆっくりとした時間の中にも「活気ある生活」を送られています。

高齢になられたからと言ってすべてをサポートするのではなく、利用者の方一人一人の可能性を引出し、人生の再構築ができるように職員が協力し合い日々の生活をサポートできるように花の街全体で取り組んでいきたいと思ひます。